

マスコミ各位

令和3年11月25日（木）

沖縄県保健医療部ワクチン接種等戦略課 予防班

担当：岡野、嘉数

電話：098-866-2013

県内の梅毒の年間患者報告数が、過去最多となりました

～梅毒は「早期発見・早期治療」と

「パートナーと一緒に検査・治療を受ける」が重要です～

1 概要

梅毒とは、性的な接触（他人の粘膜や皮膚と直接接触すること）などによってうつる感染症です。原因は梅毒トレポネーマという病原菌で、感染すると経時的に全身に様々な症状が出現しますが、その間に症状が軽快する時期があるため、自らの感染に気がつきにくい特徴があります。

梅毒が1999年に感染症法の5類感染症に指定されて以来、本県では全国と同様に2011年以降報告数が増加していますが、2021年は第46週（11月15～21日）時点ですでに過去最多となる77例（男性：58例、女性：19例）が報告されました。今年は特に20代女性の報告数が9例と多くなっています。また、HIV感染症との重複感染（合併症）も17例確認されているため、梅毒等の性感染症に感染した場合は、他の性感染症にも感染していないか検査を受けることが重要です。

梅毒は、早期の薬物治療で完治が可能です。しかし治療開始が遅れたり、完治しないまま放置したりすると、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすことがあるため、早期発見・早期治療が重要です。また、完治しても感染を繰り返す（再感染する）ことがあります。梅毒のまん延防止のためには、パートナー同士で感染の有無を確認すること、つまりパートナーと一緒に検査を受け、必要に応じて一緒に治療を行うことが重要です。

マスコミの皆様には、梅毒の感染経路、症状、予防法等の特徴や検査の重要性の周知について、改めてご協力いただきますようお願いします。